



マンスリータイムズ みはま 11月号①

ラオスから「サバイディー(こんにちは)！」オンライン授業

10月20日(金)本校高等部の学校設定科目である「生活と文化」の授業で、二学部高等部3年生11名を対象に「異文化の理解と尊重」をねらいとして海外で暮らすゲストティーチャーに遠隔授業をしていただきました。講師は一昨年まで本校に勤務し、英語を教えていた高根先生です。高根先生は、青年海外協力隊として昨年の9月からラオスで活動しており、現在は職業訓練校で障害のある生徒たちに英語を教えているそうです。

授業では、生徒から高根先生への質問コーナーの他、クイズを交え実体験をもとにラオスの気候風土や文化について紹介していただきました。ZOOMを活用した遠隔授業ではありましたが、高根先生とは一昨年授業でお世話になった事もあり、生徒は積極的に発言したり、カメラの前でおもしろポーズを取るなど和気藹々と活動する姿も見られました。クイズは全18問あり、中には超難問も含まれており苦戦する生徒が多かったです。正解数によってランクが分かれ、全問正解であれば「ほぼラオス人！」という栄誉ある称号が与えられます。しかし、ほぼ全ての生徒が4~11問正解で「ラオス人見習い」という結果に終わりました。外国の人々のくらしや文化を直接教えてもらう貴重な機会となりました。高根先生から送られてくる通信は図書室にも掲示しています！



和歌山県病弱虚弱教育研究協議会 開催

11月10日(金)和歌山県病弱虚弱教育研究協議会研究会を開催しました。今年度は、本校を会場として、対面とZoomのハイブリッド形式で開催しました。今回は和歌山大学北岡大輔先生を講師に招き、「二次障害を呈する児童生徒への教育的対応について」をテーマに、二次障害が起こるメカニズムや発達障害との関連、また生徒指導や実際のアプローチの方法について、専門的な知見から詳しく講演をしていただきました。

事後アンケートからは「明日からの授業作りや生徒対応に生かせる内容で大変参考になった」「二次障害に対する教育的対応、発達支援の生徒指導など、教員としてこれからの子どもたちへの支援に実践していきたい」という振り返りや感想があり、参加者にとって今後の指導や支援に資する充実した研究会となりました。

※和歌山県病弱虚弱教育研究協議会について・・・

和歌山県内において、病弱教育に携わる教職員は少なく、病弱教育を行うにあたり、情報交換を行ったり、教育実践を交流したりできる機会も少ないという課題があります。そこで、和歌山県唯一の病弱特別支援学校である本校の教職員をはじめとして、病弱・身体虚弱特別支援学級の設置校校長や担任などが本研究協議会の会員になり、教育実践や最新の情勢等について情報交換、共有を行い、和歌山県の病弱教育の更なる充実をめざして研鑽を重ねています。



みはま”be yourself”プロジェクト ~音楽会~

「体験は私たちの意欲と自信を生み出す」をテーマに外部講師を招き、様々な体験活動に取り組んでいます。一学部では「野外音楽会(森林浴)」と「はまかぜ音楽会」に取り組まれました。はまかぜ音楽会ははまかぜ教室と病室をZoomでつなげ、病室の仲間もリアルタイムで音楽会を楽しむことができました。

